

# スキップ

No.32

2013年9月14日

J R 東海労働組合

秋の闘いシリーズ③

**疲れを蓄積させる予備月の勤務作成を改善せよ！  
私たちは将棋の駒じゃあない！血の通った人間だ！**

当直助役が退出点呼時に「体調不良による突発休が異常に多くなっている。体調管理をしっかりとやってもらいたい」と嘆いています。

**乗務員の皆さん、予備月において、日勤行路や一丁半などの大型行路ばかりが集中した勤務とされてはいませんか？また、休日についても3マスとか1つ休みが続くような休日配置にされていませんか？**そしてさらに休日出勤が要請されていませんか。このような状況でいつ休息がとれるのでしょうか。個人がいくら体調管理したとしてもこれでは身体が悲鳴をあげるのは当然です。

会社は、自らの責任を回避するために、個人の体調管理を問題にしますが、この会社の姿勢を改めないかぎり、体調不良による突発休がなくなることはありません。

J R 東海労は、今協約改訂交渉において、乗務員の予備月の勤務発表について、交番者と同様前月の10日に休日予定日を発表すること、予備月の勤務も勤務作成基準に則って策定し、体調管理のためにも在宅休養時間を十分に確保することを昨年に引き続き要求しました。

会社は「予備勤務者についてはその性質から休日予定日を公表する考えはない。在宅休養時間に関する規定は乗務割り交番作成上での定めであり、予備勤務者に適用となるものではない」と回答しました。あきらかに要員不足が根本的な問題であるがゆえに、会社は個人の問題として片付けようとしています。

**社員は安全性、人間性のない会社の使い勝手だけの将棋の駒ではありません。血が通い、働けば当然疲れる人間なのです。**

J R 東海労は、現場で汗する社員の健康が何よりも第一と考えます。

**体調不良による突発休が急増！**

皆さん、JR東海労HPを見ましょう！

J R 東海労

検 索